

No.	質問		A委員	B委員	C委員	D委員	E委員	F委員	G委員
質問 1-①	右記の未就学児に関する公共施設やサービスを利用したことがありますか。	保育園			○		○	○	○
		児童館	○	○	○		○		○
		つどいの広場			○		○		○
質問 1-②	右記の各施設やサービスが地域拠点にあることで得られると考えられるメリット・デメリットは何だと思いますか。	保育園	メリット	保育園利用後、地域拠点にある他の公共施設が利用できる。	保育園が増えることは今後の家族支援にプラスに働くと思われる。	出勤前に預けるという観点から考えると、少しでも自宅から近い方が便利である。各地域に点在することが望ましい。	身近な地域にあることで利用しやすい。	自宅や勤務先に近い方が利用がしやすく病気の呼び出しにも早く保護者が対応出来る。	(地域拠点と言った場合、どの程度の範囲の地域かは分からないが)より身近な地域にある方が、送迎にかかる時間などを考えても、望ましい。今後、保育園は通ってはいない保護者と子どもにとっても、役立つ施設であることが求められるだろう(例、育児相談)。
			デメリット	駐輪場・駐車場不足。	駅から遠かったり、住居と職場(駅)の間になければ、使いづらい施設になってしまい、結果使われない可能性があるのではないか？	特になし。	わからない。	施設数がそれなりに必要になってくるのでは？	とくにデメリットはない。
		児童館	メリット	児童館利用以外にも、地域拠点にある他の公共施設が利用できる。	児童館で提供するべきサービスの内容が不明なため、メリットがわからない。	児童館を利用するのは、主に小学生位までの子供たちである。バスなどを利用するとは考えにくく、徒歩・自転車での利用を想定した場合、交通事故・連れ去りなど事件事故を想定した場合、近隣にあるのが望ましいので地域拠点にあるメリットは大きい。	身近な地域にあることで利用しやすい。	手軽に利用出来る、短時間利用も長時間利用も自宅から近い方が融通がきくのでは？	より身近な地域にあることにより、気軽に利用することができる。
			デメリット	駐輪場・駐車場不足。便利になる分、収容人数オーバーになる可能性がある。	現状、児童館が子供の遊びの選択肢に入っていないのでは？	特になし。	未就学児のための遊び支援ということであれば、集いの広場と複合的な運営も考えられる。小学校であればまなべがあり、中学生以上の遊びであれば広域移動も可能になる。こどもの遊び支援という機能を、すべての地域拠点に持つのは行政の負担になる。	市内に1つしかないのでは？	とくにデメリットはない。
		集いの広場	メリット	集いの広場利用以外、地域拠点にある他の公共施設が利用できる。	集いの広場で提供するべきサービスの内容が不明なため、メリットがわからない。	利用者は乳幼児を持つ母親たちである。広い駐車場がある場合、車での利用も考えられるが、大抵の場合、ベビーカーを押しての徒歩や自転車での利用が考えられるので、利用者の利便性を考えた場合地域拠点にあるメリットは大きい。	身近な地域にあることで利用しやすい。	自宅に子どもとずっといるとお互いにストレスになるので息抜きに最適だと思います。	子どもたちだけではなく、高齢者などにとっても、より身近な場所にあることが行き帰りの安全面からも必要だ。

No.	質問		A委員	B委員	C委員	D委員	E委員	F委員	G委員
質問 1-②		集いの広場 デ メ リ ツ ト	参加人数が増える事が予想され、人・物・金・管理が増える。	保護者含めて一緒に遊ぶ時間をこの施設で過ごすイメージがわからない。それであれば保育所を拡充するほうがいいのではないか。	特になし。	わからない。	スタッフの数が多く必要ですし施設代等も多くかかります。		とくにデメリットはない。
質問 2-①	小学校の最適配置は必要だと思いますか。		現状の配置は多すぎだと思います。コミュニケーションスキルの向上や授業以外の課外イベントも人数が少ない為、残念な事が多く感じられます。	将来的に子供の数は減るので、配置転換は必要だと思う。一方で、いまのままの「どの学校も基本同じ」必要があるのかは疑問。場所ごと、地域ごとの特色を持たせることで、より最適配置の意味が出るのではないか？全部の学校が同じスタンスで規模をそろえたりする必要はないのではないか？	最適配置という言葉の意味がわかりにくいですが、検討は部分的に必要だと思う。(現在の位置関係が非常に近い三小・七小などについては将来検討して良いと思う。	思う。	必要だと思います。	必要。	必要である。
	上記と考えた理由について教えてください。		教育上、1学年は何クラスが最適か知識がありませんが、学力だけでなく、人間形成の為に、ある程度の人数を集めた最適配置(学校数)は絶対必要と思います。通学距離より優先されると思います。	規模が大きくなる、小さくなる、ともに「合う」「合わない」は出てくると思う。すべてを一律の考え方でやってしまうと、どちらかを切り捨てることとなる。それであれば、場所ごとに特色を持たせる方向性もあっていいのではないか。	子供を持つ親の立場で考えると、小中学校、特に小学校が自宅から近い距離にあるのは大変重要である。大人と違い、交通事故・連れ去りなどの危険から子ども達を守るべく、教員・保護者は大変な努力をしている。最適配置という言葉はどう捉えるかがわかりにくいですが、例えばスクールバス導入などがなされ、子供たちの安全がある程度確保出来れば、統合も視野に入れての検討も良いかと思う。少人数学校のデメリットに関しては、運動会・遠足など行事の共同開催などを今後実践していけば、ある程度解消できると思う。三小・七小については立地として向かい合っているため、どちらに通っても通学としては大きな変更はないので、統合を検討しても良いと思う。	現在の配置は、児童がどんどん増えていた時代に考えられたものと思う。地理的に近接して、児童に負担が及びにくそうであれば、統廃合をした方が効率的になると考える。	児童が快適に勉強や運動などするために必要だと思います。	少子化で学年が一クラスしか無い学校が出てきている。	小規模校、とくに単学級の場合、いじめ等の関係でクラス替えをしようとしてもできない。クラス数に応じて、音楽、図工等の専科教員が配置されるが、クラス数が少ない場合は、配置されないことになる。授業の質に関わる重要な問題である。
質問 2-②		放課後児童クラブ(学童クラブ)・放課後子ども教室(まなべー)・児童館が地域拠点にあることで得られると考えられるメリット・デメリットは何だと思いますか。	働くお母さん(父子家庭)の負担を少し軽くしていると思う。	学校にそのまま子供を預けられるという点で若い労働家族層に安心して働ける環境を提供できることはメリット。	それぞれ、小学校または小学校区に付随する施設という意味合いが大きい。小学校と同様に、地域拠点とした場合、児童の安全面でのメリットが大きい。	身近な地域や学校と連動していると利用しやすい。	放課後すんなり放課後子ども教室へ移動が出来、下校も通常の下校ルートが使えるし働いていない保護者がPTA役員活動、保護者会で下校時間に間に合わない場合、まなべーはとても役に立ちます。		子どもたちが使いたい時に使えるためには、居住地から近い場所にあることが必要だ。自転車を使えない低学年の子どもが、一人、または友達と歩いて行ける場所にあってほしい。距離があればあるほど、行き帰りの安全確保が困難になる。通っている小学校に放課後児童クラブ(学童クラブ)・放課後子ども教室(まなべー)があれば、保護者にとっては、子どもが移動することなく参加できるので、安心感が高まると思われる。

No.	質問	A委員	B委員	C委員	D委員	E委員	F委員	G委員
質問 2-②	放課後児童クラブ(学童クラブ)・放課後子ども教室(まなべー)・児童館が地域拠点にあることで得られると考えられるメリット・デメリットは何だと思いますか。	どうしても、コミュニケーションがにがてな子はさびしい思いをする。担当者(先生)がそうした子をフォローする余裕がない。	場所ごとに必要、不要なものはあると思われる。すべてを一律で整えることは不要でないか。	特になし。	わからない。	児童数が増加した場合、教室が足りなくなる。		学校施設を活用した放課後児童クラブ(学童クラブ)・放課後子ども教室(まなべー)の場合、児童数等が増加した場合は、学校としての施設使用が最優先されることから、活動場所の確保が困難になる場合がある。また、学校施設を活用している場合、学校やPTA、市の行事(例、投票場)などやその準備のために、活動場所が制限される場合がある。
質問 3-①	中学校の最適配置は必要だと思いますか。	思わない。	将来的に子供の数は減るので、配置転換は必要だと思う。一方で、中学校も選択肢がある以上、「どの学校も基本同じ」必要があるのかは疑問。場所ごと、地域ごとの特色を持たせることで、より最適配置の意味が出るのではないか？全部の学校が同じスタンスで規模をそろえたりする必要はないのではないか？	必要と考える。	どちらともいえない。	必要だと思いません。	今はまだ必要ない	必要である。
質問 3-①	上記と考えた理由について教えてください。	いじめや落ちこぼれをなくし、生徒1人1人をよく観察し、きめ細かいフォローが必要と思います。学力向上、クラブ活動等、充実させるべき。	例えば杉並区の和田中学校のような、民間の校長を登用して規模を増やすような、箱の大きさから配置を考えるのではなく、ソフト面からどんな教育を行うか、といった順序で考える必要があるのではないか？	小学生と違い、中学では部活動が始まるが、生徒数の減少に伴い閉部となる場合が増加すると考えられる。また資料にあるように、学習面や行事面でも人数が少ないと切磋琢磨がされづらい一面もある。また人間関係でも難しい年齢なので、単級になることは避けたいので統合は致し方ないと思う。しかし、小学校と同様に通学における所要時間の短縮、と安全面の確保がなされないままであれば最適配置となっても意味がない。自転車通学の検討・安全確保のために通学路に一定数の防犯カメラ設置等々、様々な側面と並行して検討すべき。	現在の生徒数・学級数を鑑みると、まずは可能な限り学区の再編等によりバランスをとることを考えても良いのではないか。中学校は5校のみであるため、統廃合等は性急に考えない方が良く思う。	小学校より少し広い面積学区で安全で学校生活を通せる為にある程度は必要だと思いますが小学校の数に合わせて変更することもありだと思います。	将来は必要になると思うが、まだ時期ではないように思う。	いじめなどにより、クラス替えが可能なクラス数の確保が必要だ。学力の向上には、少人数での授業でなければならないという意見もあるが、少人数学級だから学力が高い、ということは証明されていないとのこと。適正な人数により、適正な競争(切磋琢磨)や生徒同士の教え合いの関係が深まること、人間形成や学力向上についても重要だと考える。部活動は人間形成や生徒指導の上でも大きな意味を持つ。生徒のやってみたいという希望をかなえるためにも、必要な部員の確保が必要である。専科教員の配置については、小学校と同様。